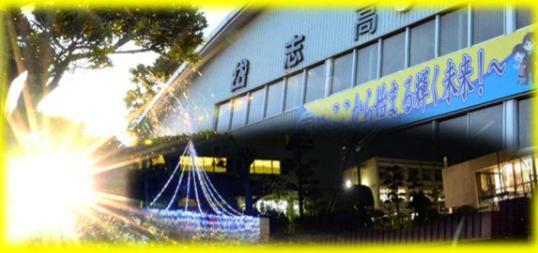


岱志から始まる輝く未来!



り 風 丸

岱志高校
定時制だより



2020年度
第2号
編集・発行
岱志高校定時制



第2回岱定らしんばん

9月4日

9月4日に第2回「岱定らしんばん」が行われました。「岱定らしんばん」とは本校定時制独自の進路行事です。今回は「社会人入門講座」という題で講話がありました。社会人として大事なマナーやルール、気をつけなければならないことなどがスライドで示され、生徒たちは興味津々で聞いていました。感想には「私も社会人としての第一歩を踏み出したい」などが寄せられました。



9月11日

人権学習 | (部落史の学習)

名月を愛でながら短歌や俳句を詠む恒例の「観月会」が、9月29日夜に本校の中庭で開かれました。昨年は曇り空で月の一部も見ることができず残念でしたが、今年は晴天に恵まれました。生徒や保護者、同窓会会長ら約50人が雲一つない空に輝く秋月を眺めながら、短歌や俳句を詠み、そよ風も心地よいキャンパスで秋の夜長を風流に過ごしました。生徒たちに日本の伝統文化を体感してもらおうと、毎年中秋の名月前後に15年以上前から実施しています。今年は新型コロナ感染が拡大しているので中止も検討しましたが、感染対策を講じて乗り切りました。

中庭に集まった生徒たちは、ベンチや芝生などお気に入りの場所にグループで座り、夜空を見上げて満月を鑑賞。感じたことを約1時間かけ

て、1人5点を詠みました。作品は生徒と教職員たちで投票し、優秀作品を11月の文化祭で表彰することになっています。

4年生で生徒会長の片岡朱舞さんは「日の入りの 澄んだ空には おぼろ月」と夕焼けに染まる空に、東の岱明山から上ってきた月が印象的に映り、俳句に詠みました。また「和の文化に触れ、友達の感性を知るよい機会でもあり、新鮮な気持ちになれました」と取材に来ていただいた記者2人に笑顔で話していました。

今回の「観月会」は、10月1日付の熊日新聞と同3日付の有明新報の紙面に写真入りで掲載されました。

★天候に恵まれた観月会★



キャンパスを少しでも明るくしようと、校長先生が5月の連休からグラウンド東側にある灰色に汚れていた壁をほぼ一人で白く塗り始めました。夏の猛暑の中、想定以上に時間がかかり何度も心が折れそうになったといいます。「途中で投げ出したい」という思いに駆られると、校歌の一節が脳裏に浮かんだそうです。「あきらめない」「投げ出さない」この言葉を思い出し、気を取り直し汗を流しました。8月末には、真っ白な壁が広いグラウンドを強調するかのよう出現! 見た人は「グラウンドの雰囲気が明るくなったね」と感動して

ました。9月13日早朝、白壁に校章を描き入ると、小岱山を背景に「グラウンド校章」が鮮やかに浮かび上がりました。登校時に視界に入るこの校章は、生徒たちの「輝く未来」を日々見つめています。※グラウンドとは、運動場(グラウンド)に出現したグラウンド(雄大な)という意味を重ねて表現してみました。因みに、校章の上部を覆うように描かれているデザインは小岱山をモチーフにしたものです。



「小岱山を背に出現! 輝きを放つグラウンド校章」

9月30日 午後5時55分

祝 完成 ★グラウンド校章★